

第2回仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会議事録

- 1 日 時 令和5年8月21日(月)
午後6時00分開会
午後8時00分閉会
- 2 場 所 仙台市役所 上杉分庁舎12階 教育局第1会議室
- 3 出席委員 黒川修行委員長、菅野拓生副委員長、赤間早苗委員、太田博文委員、齋藤ミユキ委員、
佐藤直美委員、丹野久美子委員、平田政嗣委員、藤原幾磨委員、三浦方也委員、宮川季士委員
- 4 事務局職員 渋谷総務企画部長、加藤健康教育課長、
五十嵐健康教育課主幹兼主任指導主事、佐々木保健体育係長、
菅原指導主事、佐藤指導主事、門脇指導主事、船山指導主事、近藤指導主事

5 配付資料

資料1 次期「仙台市健やかな体の育成プラン」の基本的な方向性について

資料2 次期「仙台市健やかな体の育成プラン」骨子案(概要版)

資料3 次期「仙台市健やかな体の育成プラン」骨子案

6 会議の次第

- 1 開会
- 2 議事
- 3 閉会

7 議事の概要

(1) 次期「仙台市健やかな体の育成プラン」骨子案について

- | | |
|------|---|
| 委員長 | 事務局より説明願いたい。 |
| 事務局 | -資料1、資料2、資料3に基づき説明- |
| 委員長 | 次期プランの骨子案等について、事務局からの説明内容に質問等はないか。 |
| 藤原委員 | メディアの視聴時間と1週間の総運動時間の相関について、視聴時間3時間未満の児童生徒が、比較的運動しているように感じる。3時間で区切ることでより明確な傾向が出るのではないか。 |
| 平田委員 | 運動習慣について、コロナ禍前とコロナ禍後とで大きく変わっているものと思う。コロナ禍前後でどの程度落ち込んだのが分かれば、一つの目標として、コロナ禍前に戻すといった数値目標を設定できるのではないか。コロナ禍前の運動習慣の傾向を知りたい。 |
| 事務局 | 第1回検討委員会でもお示したが、体力合計点は平成30年や令和元年をピークに下降傾向にあり、それまで地道に少しずつ上昇していたところ、コロナ禍によって落ちていることが分かる。 |
| 赤間委員 | 資料2「次期『健やかな体の育成プラン』骨子案(概要版)」の総合的な6つの施策のうち、「施策1:児童生徒の健康実態の把握と活用」について、例年実施している健康実態調査を継続するイメージか。それとも、調査対象を広げて実施を行う予定なのか。 |
| 事務局 | 従来通り、健康実態調査は継続する。また、今後の検討となるが、児童生徒の生活状況を知るためには、児童生徒のアンケートと併せて保護者の意識調査を行い、その結果を保護者にフィードバックすることも必要になるかと考えている。 |
| 佐藤委員 | メディア視聴時間を3時間未満とすることについて、小学生の生活リズムで考えたとき、午後4時ごろに帰ってくるものとする、3時間視聴した後に運動時間や睡眠時間を十分に確保することは難しい。メディア視聴時間を3時間未満とすることが適切であるかどうか、今後の子供たちの目指す姿を考えたうえで、検討する必要があるのではないか。 |
| 平田委員 | 運動時間とは、体育の授業時間を含めるのか、それとも家庭での運動時間のみなのか教えてほしい。 |
| 事務局 | 毎年行われている健康実態調査においては、運動時間に体育の授業時間は含まず、部活動や家庭での運動時間を調査している。 |
| 委員長 | メディア視聴時間について、「3時間は視聴する」という解釈ではなく、あくまでも「3時間未満 |

- とする」という意味で捉えている。実際には、睡眠時間も含め、明確に時間を示すことは困難であり、意識付けなどの啓発を行う方向性になるのではないかと。
- 佐藤委員 メディアの使用についても、時間の線引きを行うことで、「ここまでは使用して良い」という捉え方によって変わってしまうのではないかと。時間の設定の仕方が一番難しい。
- 委員長 時間の設定は非常に難しい。それと関連して表現の仕方にも気を付けなければならない。資料2「次期『仙台市健やかな体の育成プラン』骨子案（概要版）」中、生活習慣の重点項目の指標における、「同時に寝る、同時に起きる」という表現について、「毎晩1時に寝て、毎朝6時に起きれば良いだろう」という極端な捉え方も起こりかねない。様々な場面を想定し、表現の仕方を工夫する必要がある。
- 三浦委員 メディア視聴時間などについて具体的な数値を設定した場合、保護者がこのプランを見たとき、GIGAスクール構想が進み、教科書の電子化に伴いスクリーン時間が増加する中、「授業の時間だけで指標時間をオーバーしてしまうのではないかと不安に思うのではないだろうか。そういった保護者にも配慮した形になれば良いと思う。
- 委員長 すでに発言された委員もいるが、ここで全ての委員からご意見をいただきたい。
- 宮川委員 PTAの方々の話を聞き、保護者の立場になって考える必要があると感じた。
- 三浦委員 現在検討している骨子案や策定されたプランが、どのような方々に周知されるのかが気になる。検討委員会の中で得た情報を、仙台市が目指す児童生徒の姿としてPTAにも共有していきたい。
- 藤原委員 骨子案の「目指す児童生徒の姿」である「しっかり食べて、たっぷり運動し、ぐっすり眠る、笑顔と元気あふれる仙台っ子」の「しっかり」の表現が気になった。仕事上、肥満のお子さんをたくさん見ているが、「しっかり」食べるという表現は、読みようによっては「たくさん」食べるとも読める。「適切な」という意味合いの言葉に変えることはできないか。
- 事務局 今後は、パブリックコメントという形で、市民の方に広く意見を求めていくこととなる。気になる文言や表現については、本検討委員会でご意見をいただき、市民の方々にとってわかりやすいものにしていきたい。
- 平田委員 当検討委員会では、どのレベルまで委員で検討を行うのか。資料2「次期『仙台市健やかな体の育成プラン』骨子案（概要版）」における、施策2に記載されている「連携・協働」とはどのようなイメージなのか。
- 事務局 次回提示する中間案において、具体の施策や内容、ねらい、スケジュール等をお示しする予定。
- 丹野委員 子供は、半強制的に何かをさせられた方が、自分のリズムや自分のやりたいことに組み込んで行動を起こせるものと思っている。抽象的にはなるが、子供たちが自ら積極的に行動を起こせるような、子供の姿が見えてくるプランになると良い。
- 佐藤委員 骨子案「総合的な6つの政策」の2①「学校・家庭・地域との連携（三者連携）による健康教育の推進」は大事な部分であり、より一層具体的に考えていかなければならない。今の子供たちは、公園で遊んでいると近所の方からうるさいと言われたり、学校にクレームが入ったりする。その結果、家で過ごすことを選ぶ家庭も多く、遊びたくても遊べないという現状を抱えている。また、最近は猛暑が続いており、日中は外で遊ぶことができない。例えば、市民センターと連携して体育館を開放したり、学校で体育館を使わない時間は貸し出しを行ったりするなど、他者連携による運動場の提供を実現することで、子供たちの健やかな成長につながると思う。
- また、地域に住んでいると、様々な世代の方とのつながりも重要になってくる。コミュニティ・スクールは昨今の情勢に即した政策であると思う。コミュニティ・スクールを通じて地域とのつながりを作る中で、「子供の声って安心するね」「うれしくなるね」となるように持っていくことも、非常に大事なことなのではないか。
- 委員長 地域の力が、子供たちを育てることになる。
- 齋藤委員 3習慣の総括的な目標に「肥満の減少」を掲げているが、食習慣の重点項目を実践したからといって、最終的にプランを見直したとき、はっきり「減少している」と数値上確認できるか疑問である。肥満にならない子供を育てるための重点項目であって、肥満の減少という数値目標に直接的には結

- 委員長 びつかないのではないかと。また、肥満は、家庭の食生活に大きく関わるため、例えば日本の20～30代の朝食欠食の改善というような部分にまで踏み込まないと、食事の改善は難しいと思う。
- 委員長 肥満傾向児の出現率が以前に比べてかなり低くなっているため、さらに数値的に減少させるとなると難しい部分はあるかもしれない。しかし、肥満は健康障害の一つであるため改善が必要であり、アプローチの仕方が課題になると思う。
- 副委員長 子供に運動を意識させることは、並大抵の努力では難しく、気持ちの変化を促さなければならない。家庭や地域に委ねるのではなく、学校教育とリンクさせることが重要だ。今子供たちは、朝登校してすぐ、校庭に遊びに行くのではなく、自席でタブレットを見ている。それにも関わらず、家庭に対して「運動させてください」「メディア視聴時間を制限してください」と言うことはできない。学校教育に身を置く者として、教育課程の中で本プランが上手くリンクし、家庭・地域・学校が三者一体となって取り組むという観点で見たい。
- 太田委員 資料3「次期『仙台市健やかな体の育成プラン』骨子案」は、読みやすく分かりやすかった。次期プランの目標は、目標として掲げてはいるものの当たり前のことであり、どのように認識し、どのように学校・家庭・地域に浸透させるかということが重要だと思った。「規則正しい生活」をとってみても、目指す姿がはっきりしないため、望ましい時間を具体的な数値で提示したほうが、学校も家庭も地域もそれを目安に取り組むことができるのではないかと。また、市と学校での取組だけでは限界があるため、本プランをコミュニティ・スクール等を通じて町内会や地域などの末端にまで浸透させ、地域・家庭・学校が同じ方向性で取り組んでいくことによって、子供たちの活動範囲を広げることができると思う。
- 委員長 地域との連携やコミュニティ・スクールがキーになる印象を受けた。
- 赤間先生 骨子案「総合的な6つの施策」の6「学校支援体制の構築」にあるように、専門の先生方や関係機関の方にもサポートや助言をしていただけることは、学校現場としては非常に心強い。
- 委員長 教材研究をしていく中で、理想的な運動時間や睡眠時間、メディア視聴時間や画面と目の距離などについて、調べれば調べるほど様々な数値が示されており、どれを信じるべきか戸惑ってしまう。次期プランでは、望ましい数値を具体的に提示してもらえると、学校では指導がしやすい。
- 委員長 事務局では、数値の設定について考えていることはあるか。
- 事務局 指標の設定の仕方については、現在検討中である。次回の検討委員会において提示できれば、皆様よりご意見をいただきたい。具体的な数値を設けた場合、それに影響を受けることも懸念されるが、プランの施策を推進していくために必要であれば、数値指標を掲げることも検討する必要があると考えている。
- 委員長 理想的な運動時間や睡眠時間等については、世界的な論文を見ても、明確なエビデンスが示されているものはない。子供は成長過程にあり、適切な数値を設定するのは非常に困難である。
- 委員長 本プランや取組については、多くの仙台市民に知ってもらう必要がある。子供たちも当然ながら仙台市民であり、地域住民である。昨今では「人と人の繋がりが健康との関わり」という話題も出てきており、取組を積極的にアピールし繋がりを構築することで、仙台市の宝となる子供たちの健康を実現できるのではないかと。思う。

8 その他

- 委員長 本日の議事は以上で終了とさせていただきます。次回は「中間案の検討」等が議事となる予定。
- 事務局 本日以降も気付いた点や意見、質問、必要な資料があれば、お知らせ願いたい。また、次回の開催は10月中旬を予定している。配付した用紙に都合の良い日程を記入の上、後日提出願いたい。

以上

令和 5 年 10 月 16 日

署名委員 仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会委員長

仙台市健やかな体の育成プラン検討委員会委員

黒川 修行
太田 博文